



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆様等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.3

寄附講座Ⅲ 地域外科診療部

今回は、「地域外科診療部」についてご紹介します!

■へき地医療の提供と医師の確保、要請

医師不足の深刻化が叫ばれる昨今ですが、人口減少傾向と高齢化が進む地方の外科診療は危機的状況にあります。このような中で、地方病院に対して限られた人員でより効果的な診療支援を行い、若手医師が魅力を感じる研修体制を確立することを目指しています。診療体制は、消化器外科2名、胸部外科1名の計3名の医師で、県立三好病院で手術を中心とした診療支援を行っています。所属する医師は、消化管・呼吸器疾患に対する手術の研鑽を積み、さらにへき地診療の経験を重ね、へき地医療の提供とともに医師の確保、養成に尽力しています。

その取り組みは以下のようなものです。

①安心できる地域医療の提供／消化管・呼吸器疾患はへき地でも症例の多くを占めていますが、救急疾患を含めて手術、とくに高齢者への負担の軽い鏡視下手術を積極的に行います。また、本院がん診療連携センターとも連携をとって、がん診療に地域格差がないような環境整備をめざし、毎月開催されているcancer boardも双方向通信で三好病院にライブ中継されています。

②医師の確保・養成／徳島大学や県立病院群とのネットワークを生かした医療支援体制を強化し、医師以外の医療従事者の確保・養成を行います。鏡視下手術などの高度医療は、初期・後期研修医の獲得に寄与します。次の時代の地域医療を担う人材育成を

目指して、地元の中高生を対象に模擬手術体験・キッズセミナーなどを企画しており、2010年10月9日に徳島大学と三好病院で開催されたセミナーでは、双方向通信で両会場が結ばれました。

③研究(手術支援・特に遠隔医療)の推進／徳島大学と県立病院間のインターネット回線網を利用した遠隔医療システムの構築を進めています。既に美波町立日和佐病院と徳島大学間には常時、手術映像を流すことが可能となっており、今後、三好病院でも検査、画像診断やリハビリテーションなどにも適応を拡大し、効果的な医療支援システムを構築します。

■手術の症例と指導者の確保が肝心

現場では高齢者の急患も多く、体力が落ちていることもあって心臓の病気などで重い症状の人が少なくありません。患者さんに対する事前情報もない場合も多く、診断が難しいケースも多くあります。そうしたなかで現場の医師が何とか頑張っているのは、地域医療を守るためです。これから団塊世代の医師が現役を引退していくと、医師不足はますます深刻化します。現場にいるとその切実さをひしひしと感じます。都会志向になりがちな若手の医師をひき付けるには、地域医療の現場を魅力的なものにすることが大切です。そのためには、手術の症例数と指導者の確保など研修環境を充実させ、携わる医療関係者の待遇改善が一番大切だと思います。

「寄附講座」について

徳島県は、医師不足解消などを目的とした「地域医療再生計画」のひとつとして、2010～2013年度の4年間、運営費等を負担し「地域産婦人科診療部」「ER・災害医療診療部」「地域外科診療部」「総合診療医学分野」の4つの「寄附講座」を徳島大学に開設しました。「寄附講座」に所属する教員(医師)は、県立病院(中央病院、三好病院、海部病院)において診療活動を行いつつ、地域医療に関する研究を通じて同病院を支援するとともに、将来の地域医療を担う医師の養成に取り組んでいます。



説明は、
徳島大学病院 地域外科診療部
特任教授

栗田 信浩 (くりた のぶひろ)

■ 問い合わせ

地域外科診療部

Tel.088-633-7139